



池田要祐氏

概要

◆氏名・所在地

池田 要祐 青森県青森市

◆研修開始年

令和6年4月

◆研修内容

水稲、ぶどうでUターン就農を希望し、青森市内の大規模農業経営者の下で2年間の長期研修に取り組んでいる。

1

就農相談までの背景

東京都で働いていたが、先祖代々受け継がれてきた実家の農業の手伝いを通じて、地元青森へ貢献したいという思いが強くなり、結婚を機にUターン就農を決意した。

しかし、実家の農業を継ぐと決意したものの、農業経験が実家の手伝い程度しかなかった。このため、栽培技術や農業経営に関する知識を学ぶいい方法はないかと調べていたところ、地元の友人から「青森県農業経営・就農サポートセンター（以下「サポートセンター」という。）」の紹介があり、ホームページで支援内容を調べ、まずは話だけでもと思い相談した。

2

相談内容

「水稲」と「ぶどう」を主な栽培品目とした農業経営を行うための営農計画の作成や必要を知りたい。

将来的に実家の農業を継ぎたいが、農業に関する経験と知識が足りないため、「栽培技術」、「人材確保」、「経営」の全てに不安があり、農業経営に関する知識などが少ないまま親元就農をすることに迷いがある。

3

支援内容

●農地利用や生活面の相談対応

就農相談時点では、農地取得や生活資金面を含む営農計画は構想段階であったため、農業を始める上で必要な情報や国等の支援事業を紹介した。

●研修受入先の紹介

「水稲」と「ぶどう」を主な栽培品目として地元青森市に就農したいという希望を踏まえ、水稲の大規模経営を営み、育苗ハウスを活用したシャインマスカット栽培のほか、りんごやニンニクも栽培している市内の農業経営者を研修受入先として選定した。

農業現場での実践的な研修に加え、農業の基本的な知識の習得や仲間づくりを行うために、研修受入先で令和6年度から2年間の長期研修を行うこととした。

●関係機関との連携による取組

相談者の実家は水稲やりんご、トマト、きゅうりを栽培品目とする農業者であり、後継者である相談者への経営継承に向けて、農業の基礎的な知識や栽培技術の習得が必要と判断された。このため、サポートセンターが中心となって就農相談に対応し、青森市や青森農業協同組合、サポートセンターのサテライト窓口である普及指導センターと連携を図った。



育苗ハウスを活用した研修先のぶどう栽培の様子

今後の意気込み

これまで青森県を離れていたため、実家の農業経営の状況も十分に知らない状態であり、将来的に私が経営を継いだ場合、どの程度の経営規模でどの程度の人数を雇えばいいかなどが分かりません。

上手く農業経営を行っている大規模農家が、どのように農業で稼ぐことができているのか、実家の農業経営と何が違うのか、足りないことは何かなど、多くのことを学びたいと思っています。

これらを学んだ上で、実家の農業経営を上手く改善するなど、自分なりの就農ビジョンを確立していきたいです。

専属スタッフ所感

実家の農業経営を継承したいという明確な意思を持つ、将来の担い手人材です。

相談者の希望及び実家の栽培品目に合った研修受入先を設定できたため、令和6年度からの2年間の長期研修で栽培技術等を学び、その先の経営継承、独立就農に至る道筋について整理できました。

今後、各機関と連携しながら、相談者の就農後の経営に必要な技術習得や経営継承に向けた支援を行っていきます。



大西進氏、由希子氏

概要

- ◆氏名・所在地
大西 進、大西 由希子 岩手県二戸市
- ◆就農年
令和5年4月
- ◆経営規模
野菜（ピーマン等）0.35ha
- ◆従業員数
パート・アルバイト 3名
- ◆事業内容
ピーマン等の野菜の栽培に取り組む。

1 就農相談までの背景

就農前、進氏はガス関係、由希子氏はIT関係の会社に勤務しながら、**家庭菜園で野菜等を栽培**していたが、栽培をとおし、**農業が自身に合っている**と考え、本格的に就農を考えるようになった。

どこに相談すれば良いかわからなかったが、インターネットで調べたところ、「岩手県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）」のサテライト窓口が関係機関と連携して開催している「**二戸地方就農相談会**」を知り、相談会に申し込んだ。

2 相談内容

就農を考えているが、**農業の知識がない**ため、まずは**具体的な栽培品目**を決めたい。

また、農地を確保できていないため、自宅近辺にある**農地の情報及び借用方法**について教えてほしい。

その他にも、**就農に係る手順や市町村等の支援制度**があれば教えてほしい。

3 支援内容

●相談対応の流れ

サテライト窓口やJA、市町村が連携して**ワンストップで就農相談に対応**する「二戸地方就農相談会」において、**相談者の意向等を確認、共有**した。その後は、相談内容に応じ、各団体及び機関が連携して**個別に対応**した。

●栽培品目の決定

二戸地域では、近年、ピーマンの新規生産者が増加しており、JAでは**優良苗の供給体制を整備**しているほか、**園場巡回や栽培指導会の開催**により、栽培技術の向上を図っており、相談者を受け入れやすい環境が整っていたため、県作成の二戸地方園芸振興プラン等を参考に、**二戸市が振興しているピーマン**を栽培品目に決定した。

●農地の確保

自宅から近く、露地栽培向いていることや水源も確保できることなどを条件に、二戸市農業委員会が中心となり、農地の確保について支援した。

●資金及び機械導入等に係る支援

国の支援制度である**経営開始資金**及び**青年等就農資金**を活用するとともに、**経営発展支援事業**により、トラクター、マルチスプレイヤー及び管理機等を導入した。

また、事業の申請等に当たっては、就農5年目までの計画をまとめた「**青年等就農計画**」の作成について、JAを中心に、関係機関・団体が連携して支援した。



ピーマン苗の定植後のほ場



経営発展支援事業により導入した機械

今後の意気込み

まだ就農2年目なので、まずはその年の様々な気象状況に対応し、**安定した収量を確保**できるようにしたいです。

また、将来的には**面積を拡大し、法人化を目指したい**ので、今後、支援センターには、法人化に関する経営相談をお願いしたいです。

専属スタッフ所感

相談者夫妻は、当初から「**本格的に就農したい**」との意向が強かったことから、青年等就農計画の作成を通し、比較的短期間で**具体的な就農のビジョン**が明確となり、**就農相談を受けた翌年の4月からの就農**につなげることができました。

相談者夫妻の今後の経営発展に向けて、引き続き関係機関と連携し、**栽培技術の向上及び法人化等**を支援していきます。



アスパラガスのハウス栽培を研修中の佐藤佑樹氏

概要

◆氏名・所在地

佐藤 佑樹 宮城県柴田町

◆研修開始年

令和5年9月

◆研修内容

宮城県村田町の佐藤民夫氏のもとで、多品目野菜（スイートコーン、アスパラガス、いちじく等）の栽培技術及び直売所を中心とした販売方法などの研修に取り組む。

1

就農相談までの背景

農業資材を扱っていた前職では、「お客様の質問に答えられる、確かな知識を身につけたい」という目標があった。10年間続けていた市民農園での楽しい経験と目標がいつしか重なり、もっと農業を知りたい、さらには農業を仕事にしたいと思うようになった。

その際、就農地として頭に浮かんだのは、祖父母が生活していた宮城県柴田町であった。当時、北海道で仕事をしていたため、宮城県の就農支援等についてネットで調べ、就農相談会にオンラインで参加することとなった。

2

相談内容

祖父母が農地を所有していた柴田町で、独立自営就農したいという相談をした。栽培品目については、栽培経験があった長ねぎとアスパラガスをイメージし、情報収集はしていたが、実際に宮城県内ではどのように栽培されているかの知識があまりなかった。そのため、県内で生産に取り組んでいる農業者の視察と、実際に研修を受け入れてくれる農業者の紹介を「宮城県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）」に相談した。

3

支援内容

●農地利用や生活面の相談対応

就農相談会終了後、就農専属スタッフから就農希望地である柴田町や大河原農業改良普及センターに相談者情報を共有するとともに、研修中の生活資金について佑樹氏が不安を抱えていたため、就農準備資金について説明した。

●研修機関等の紹介

相談者が希望する栽培品目（アスパラガスや長ねぎ等の多品目露地野菜）を地域の気候に合った栽培方法で生産し、直売所を中心に出荷しており、かつ、研修生の受入実績もある隣の佐藤民夫氏を研修候補先として、柴田町が紹介した。研修候補先の視察を通して、相談者が目指す農業経営に近いことが明確となり、研修先が決定した。



関係機関と共に佐藤民夫氏（研修先）を訪問

●関係機関との連携による取組

就農相談会終了後、支援センターと、就農希望地である柴田町、大河原農業改良普及センター、J Aみやぎ仙南とが連携し、就農に向けた支援体制を整え、視察先の調整を行った。

研修候補先に、相談者と関係機関が一緒に足を運ぶことで、品目研修内容を具体的にイメージでき、支援体制内で課題や支援内容を迅速に共有できた。

●就農市町村の決定

就農希望地の柴田町や農業委員会は、研修中の居住地や農地に関する情報を提供し、早い段階から密接な支援を行うことで、貸借する農地が決定し、研修中から就農後の生活基盤が固まった。



栽培品目選定に向けた長ねぎ栽培の視察

今後の意気込み

研修は、当初2年間で、就農は令和7年9月の予定でしたが、新たな農地利用の見込みと研修先の後押しがあり、令和6年9月に就農することとしました。

既に、栽培品目の選定や就農計画の作成、出荷先との調整等、就農に向けた準備を関係機関の指導の下、進めていきます。

専属スタッフ所感

就農相談では相談から研修開始まで、関係機関と常に相談しながら、就農計画の作成支援や研修先等の準備を進めています。

相談者は、相談前から就農希望地や栽培品目について情報収集されており、就農ビジョンが明確化であったため、関係機関と共にスムーズに支援することができました。引き続き、関係機関と情報共有を行いながら、就農に向けて相談者をサポートしていきます。



経営継承により新規就農した高橋一成・真由夫妻

概要

- ◆氏名・所在地
高橋 一成、高橋 真由 秋田県男鹿市
- ◆就農年
令和6年4月
- ◆経営規模
日本なし 2.0ha
- ◆従業員数
常時雇用1名、パート・アルバイト5名
- ◆事業内容
樹園地を継承し、日本なしの栽培に取り組む。

1 就農相談までの背景

県内大学在籍時に、インターンシップやボランティア、アルバイトなどを通じて数多くの農家と交流する中で、その土地の風土や生産者の考え方の影響を受け、生産される農作物に魅力を感じ、二人が好きな果樹で就農したいと考えたようになった。

就農前研修として、「未来農業のフロンティア育成研修（秋田県研修制度）」に参加し、果樹試験場において技術を習得していく中で、指導担当の研究員や普及指導員の紹介により「秋田県農業経営・就農支援センター」に相談することとなった。

2 相談内容

秋田県で日本なし栽培に取り組みたいということから、技術習得研修を受けるとともに、地元JA職員及び市職員と共に継承できる樹園地を探し、令和5年冬に継承する樹園地が決まった。

しかし、どのように経営を行えば良いのか、樹園地をどのように継承すれば良いのか等の様々な課題があり、専門的な観点からの助言が必要だと実感したため、より具体的な営農計画の作成や経営継承等について相談した。

3 支援内容

●関係機関との連携による支援

就農先となる男鹿市や出荷先となるJAと共に、補助事業の活用を含めた相談対応を行い、新たな栽培品目として大粒ぶどう栽培開始に向けた補助事業や経営開始資金の活用が検討された。

●経営継承に向けた相談対応

樹園地の継承に向け、前園主を交えて、経営継承の方法について個別支援チームで相談対応した。農地や機械は賃貸借契約で利用することし、今後の売買についても話し合った。これらの内容は申し合わせ事項として書面を作成し、双方と前園主の相続人が保管する形で経営継承を見える化することができた。

●具体的な営農計画の相談対応

営農開始に向け、相談者が作成していた収支計画を基に、就農後の収量推移の見通しや、必要となる機械及び資材等の精査、必要労働力の計算等を含めたより詳細な営農計画の作成について、個別支援チームにより支援を行った。

あわせて、移譲を受ける日本なしの樹園地に加え、大粒ぶどうの導入を目指し、5年後の経営を見据えた営農計画となるように支援した。



就農研修で機械操作研修を受ける一成氏



営農計画の作成に向けて説明を受ける高橋夫妻

今後の意気込み

まずは就農地域に馴染み、前園主の協力を得ながら日本なしの早期生産安定を図りたいと思います。

その上で大粒ぶどう栽培にも挑戦し、収益性の向上による経営安定を図り、観光や地元の飲食店と連携することで、地域に人を呼び込めるようにしていきたいです。

専属スタッフ所感

県外出身のお二人による移住就農でしたが、日本なしに取り組みたいという強い意志と地元JAの手厚い支援により、円滑な経営継承・就農が実現しました。

特に果樹においては、生産者の高齢化に伴う第三者継承の事例増加が予想されることから、本事例をモデルの一つとし、支援を行っていきます。



今橋知幸・理砂夫妻

概要

◆氏名・所在地

今橋 知幸、今橋 理砂 山形県最上町

◆研修開始年

令和6年4月

◆研修内容

養蚕ときのこで就農を希望し、現在、2年間の長期研修に取り組んでいる。

1

就農相談までの背景

茨城県で働いていたが、20数回訪問して大好きになった山形県で夫婦一緒に就農することを決意した。就農候補地を探すうちに、令和4年12月に訪れた最上町の雪景色に魅了され、最上町への移住を決意した。

「きのこ」生産に取り組みたいと、体験先の農家を探す中で、様々な人とのつながりができ、養蚕ときのこを営む下山菊夫氏（最上町）と出会った。下山氏と意気投合し、下山氏の下で研修を行いたいと話が進んだ。

2

相談内容

令和5年1月、今橋夫妻が「山形県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）」を訪問し、「令和5年2月、最上町に移住したい。自分たちに農業経験はないが、今後、最上町で、養蚕・きのこの技術を学び、就農したい。技術習得に向けた各種研修に関する情報等を知りたい。」という相談があった。

生活面は最上町が、独立就農に向けた研修等は主に支援センターが対応することとなった。

3

支援内容

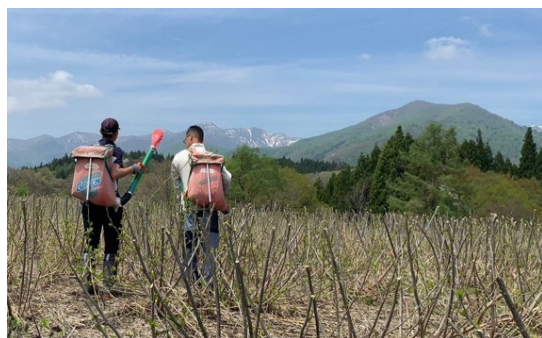
●生活面の相談対応

今橋夫妻は、令和4年12月に最上町に移住相談を行い、町より町営住宅の空き情報を得て、年明けの令和5年2月に最上町に移住した。

●研修機関等の紹介

令和5年1月以降、支援センターで今橋夫妻と複数回の面談を実施し、令和6年度から下山氏を受入農家とする長期研修を始める方向で調整した。

なお、県内で養蚕に取り組んでいる農家は2戸まで減少しており、関係機関には、養蚕に係る研修プログラム等はないことから、養蚕に関して知見を有する県職員OBのサポートを得ることとした。



桑園の管理作業

●関係機関との連携による取組

支援センターが中心となって、相談者夫妻の就農相談に対応した。また、下山氏を出し手、相談者夫妻を受け手とする経営継承の話も出たことから、経営継承の面からの支援も行った。相談内容については、随時、最上町、県最上総合支庁農業技術普及課等と共有を図った。

相談者夫妻は、令和5年度は長期研修の準備段階で、その生活支援が急務であったことから、県が新たに事業化した移住者向けの「お試し就農移住体験」を活用し、下山氏が相談者夫妻に支払う賃金の一部を支援した。



自動給餌機械を使った蚕の飼育

今後の意気込み

令和5年から夫婦で養蚕と菌床なめこの匠の下で2年間の長期研修を行っています。就農後は、二人で力を合わせ、国内でも希少な養蚕と、木箱を使った菌床なめこという特徴を活かして、高付加価値化や新たな販路開拓、作業の省力化等に積極的に取り組みたいです。

専属スタッフ所感

農業未経験であっても、「山形県で農業をしたい。」という“希望”を持つことが出発点です。

相談者夫妻は、県内で「養蚕」と「きのこ」で就農したいと強く希望したことから、関係機関に加え、養蚕に詳しい県職員OBの協力を得て、令和6年度からの長期研修とその先の独立就農に至る道筋について整理しました。

各機関と連携しながら、相談者夫妻の就農後の経営に必要な技術習得や経営継承に対する支援を行ってまいります。



渡邊有紀氏

概要

◆氏名・所在地

渡邊 有紀 福島県三春町

◆就農年

令和6年4月

◆事業内容

就職先の農業法人にて主にハーブ栽培に取り組む。

1

就農相談までの背景

トルコギキョウを栽培している農業法人でアルバイトをした際、農業に興味を持った。

その後、他業種に就いたものの、自分のペースで働ける農業に魅力を感じ、自営就農を目指して情報収集をしながら、県内の農業法人である株式会社ファームアシベでアルバイトをしていた。

本格的な就農に向けて、研修先や農地について役場に相談していた中で、「福島県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）」の紹介を受けた。

2

相談内容

当初は自営就農を目指しており、就農計画の作成や農地の斡旋について、役場に相談していた。

しかしながら、相談していく中で、自営就農には農地や販路、労働力の確保など様々な課題があることが分かった。

それでも農業を仕事にしたい思いは変わらなかったため、ゆくゆくは独立も視野に入れて就農形態を雇用就農に切り替え準備をしていきたい。

3

支援内容

●就農計画に係る支援

相談者はトルコギキョウで就農することを希望していたが、農業経験が少ないこともあって、具体的な経営収支や補完品目の組み合わせ、労働力や販路について確かな計画を立てるまでに至っていなかった。

そのため、支援センターのサテライト窓口にて、農業経営や就農形態、研修先等を考える上で必要な情報を提供・提案した。

●研修中のフォローアップ

相談者は就農準備資金を活用して、郡山市園芸振興センターでトルコギキョウの研修を開始した。就農専属スタッフやサテライト窓口職員が、年に2回、相談者の研修先を訪問し、現状の確認と今後について研修先の指導者と共に面談する等のフォローアップを行った。

●農業経営のセミナー等への参加誘導

就農に向けた情報収集を行うために、支援センターが主催するセミナー（経営管理の基礎や雇用、市町村等の関係団体及び県内就農者の取組発表等に係るセミナー）への参加を促した。

セミナーの参加を通じて、農業経営の実態を学び、自身の就農の形についてより考えを深めることができたため、アルバイト先であった株式会社ファームアシベに雇用就農することとなった。



就農先の株式会社ファームアシベの皆さん



支援センター主催のセミナーの様子

今後の意気込み

農業を仕事にしたいという気持ちは強くありましたが、実際に窓口で相談し、セミナー等にも参加して勉強していく中で、就農実態を学ぶことができました。

今後も就農先で知識や技術を磨きながら、将来的には独立も視野に入れて、農業に励んでいきたいです。様々な関係者の方に助けていただき、大変感謝しております。

専属スタッフ所感

就農相談にあたり、相談者の希望と現状のすり合わせを丁寧に行い、その中で様々な選択肢を提示していくことで、無理のない就農につなげることができます。

相談者はご自身で農業法人でアルバイトをされたり、支援センター主催のセミナーへも積極的に参加し、情報収集されたことで、雇用就農という形で農業に参入いただけました。

しっかり地域に定着し、担い手となっていただけるように、今後もフォローしていきます。